

# 家族とキッチン—使用状況と意識に関する研究

## Study on the relations between kitchens and families

### — Based on observations of the users —

0330120 山口由紀葉 Yukiha YAMAGCHI  
指導教官 元岡展久 Nobuhisa MOTOOKA

#### 1. はじめに

女性の社会進出が進み、平成4年には共働き世帯数が主婦世帯数を上回った。それに伴い生活スタイルが変化し、食生活に関わる空間としてのキッチンの存在意義も変化してきた。しかしキッチンプランは未だに女性のみ視点から設計されている。

本研究では核家族におけるキッチン使用状況や夫婦間のキッチンに関する意識を調査した。その結果を家族形態ごとに分類し、それぞれの傾向を比較・連関関係を明らかにすることでキッチン空間のあり方を考える。

#### 2. 方法

まず、キッチンの歴史、家庭科教育の歴史についての文献調査、並びに就業状況についての国勢調査データ収集を行いキッチン周辺の歴史的背景を整理した。そしてプレアンケート調査、本アンケート調査、コーポラティブハウスに住む家族にインタビュー、合わせて平面図分析を行った。

以下、方法の詳細を記す。

##### 1) アンケート調査

目的 核家族におけるキッチンの使用状況と夫婦のキッチンに対する意識をアンケート調査し、結果を家族形態別にクロス表に表す。そこからグラフ作成・連関係数を出し分析することで家族とキッチン空間の関係を把握する。

	プレアンケート	本アンケート
対象	本学で核家族 実家暮らしの生徒の両親41組82人	核家族の夫婦40組80人
期間	平成18年10月16日～30日	平成18年12月16日～1月12日
方式	アンケート用紙郵布	アンケート用紙郵布・郵送
有効回答数	20組40人	211組422人
回収率	48%	52%
夫婦への共通質問	・家族形態 ・現在のキッチンについて ・就業状況 ・食生活状況 ・家事分担状況	(プレアンケートに追加した質問事項) ・子供の年齢と数 ・現在のDK関係
夫妻それぞれへの個別質問	・年代 ・就業状況 ・キッチンに求めること ・ながら調理	・理想のDK関係 ・理想のキッチン型

##### 2) インタビュー調査

目的 キッチン設計時のポイントや使用感をインタビューし、家族形態とキッチンの関係を分析する。

期間 平成18年12月14日～16日

対象 コーポラティブビレッジ\*に住む夫婦7組

質問内容

- ・ キッチン設備時に重視したこと
- ・ 仕事と家事の両立について
- ・ 現在のキッチンへの満足点・不満点など

また、インタビューを行った住人の住居の平面図を、位置関係を明確にするために使用した。

#### 3. 調査結果

各調査結果を1) DK関係、2) キッチン型、3) キッチンに求めること、4) 食生活状況、5) 食事に関する家事分担状況からみて、子供の有無と年齢、夫婦の年代、就業形態との関係をクロス表・グラフに表し相関関係を分析した。

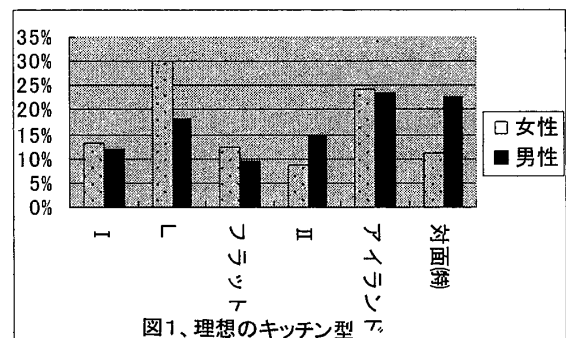
以下、それぞれの項目の特徴を簡単に記す。

##### 1) DK関係

理想とするDKの関係は子供の年代に左右されている傾向がある。低学年の子供を持つ夫婦は、調理中子供を視界に入れておきたいという理由からオープン型を求める割合が高く、独立型を求める割合が低かった。

##### 2) キッチン型

キッチン型に関しては性別ごとの差が出た。女性は作業効率が良いという理由からL型を、男性はコミュニケーションが取れるという理由から対面I型を好み傾向にあった。



### 3) キッチンに求めること

キッチンに求めることを13項目中3項目選択してもらった。就労形態ごとに選択項目を比較してみると、表1のような連関があらわれた。これは図2・図3のように選択の傾向の違いが、就労形態ごとにどれ位あるかを示したものである。値が0に近い程傾向が少なく、1に近い程傾向が強い。結果、連関係数上位3位は全て共働き家庭・妻のものだ。よって、共働き家庭・妻は比較的独自の選択をしているといえる。逆に係数が0.15以下だった関係は主婦家庭・妻×パート家庭・妻や主婦家庭・夫×パート家庭・夫のように、同姓間であったことから就労形態よりは男女別で選択の傾向があるといえる。

また選択内容では、共働きの夫・妻がデザイン性を、共働き以外が使いやすさや清潔感を、女性収納、男性コミュニケーションや耐久性を多く求める傾向にあった。

表1、就労形態別 キッチンに求めることの連関係数

	主・妻*	主・夫*	パ・妻*	パ・夫*	共・妻*	共・夫*
主・妻	0.00					
主・夫	0.20	0.00				
パ・妻	0.10	0.18	0.00			
パ・夫	0.18	0.08	0.17	0.00		
共・妻	0.27	0.25	0.23	0.22	0.00	
共・夫	0.25	0.18	0.22	0.15	0.27	0.00

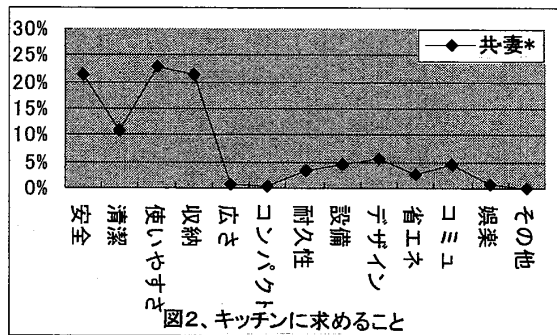


図2、キッチンに求めること

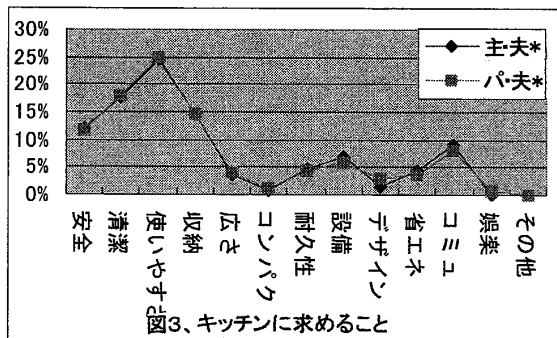


図3、キッチンに求めること

### 4) 食生活状況

共働きの家庭では、毎日全員で食事をする割合が最も高かった。一方主婦家庭とパート家庭では週2回という回答が多く、そのほとんどが土日であった。

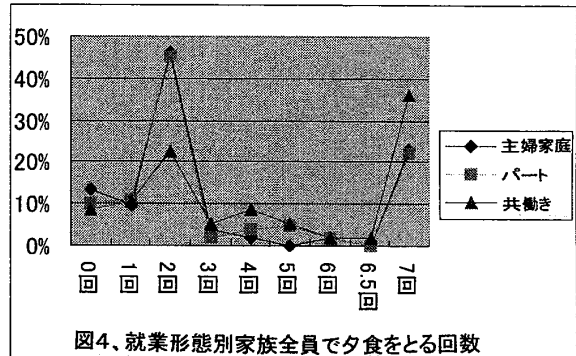


図4、就業形態別家族全員で夕食をとる回数

### 5) 食事に関する家事分担状況

年代が低く、子供はいない方が家事分担は進んでいる。就労状況では、共働きの家庭で最も進んでいる。それでも全体で妻の担当であった。項目ごとにみると、片付けや買い物で分担が進み、調理が最も進んでいなかった。

## 4、結論

家族形態によって求められるキッチン像は複雑に変化し、ある特定の家族形態に対して一概に適したキッチンを提案することはできない。しかし、①DK関係と子供の年齢、②キッチンの型と性別、③キッチンに求めることと性別、④食生活状況と就労時間、⑤家事分担状況と就労時間の様にキッチンの因子それぞれが依存している家族形態の因子が存在する。共働き家族の中でも子供の有無・年齢、夫婦の年代、就労形態などで分類して、求められているキッチン像の傾向をつかむことができる。

#### <脚注>

コーポラティブビレッジ\* 住宅を必要とする人たちが集まり組合を結成し、土地の購入から造成工事の発注、住宅工事の発注、その他の業務をコーポラティブ(共同)方式で行って創る街のこと。今回調査したのは東京都調布市に2006年7月に竣工した野川ビレッジ(16戸中7戸)。ここを選んだ理由は、竣工後数ヶ月以内に調査できることから設想時の考えや平面図が残っている為。

主・妻\* 主婦家庭(夫が就労・妻が主婦)の妻

主・夫\* 主婦家庭(夫が就労・妻が主婦)の夫

パ・妻\* パート家庭(夫が就労・妻がパート)の妻

パ・夫\* パート家庭(夫が就労・妻がパート)の夫

共・妻\* 共働き家庭(夫婦共に就労)の妻

共・夫\* 共働き家庭(夫婦共に就労)の夫

※尚、主夫家庭(夫が注夫・妻が就労)と夫婦共にパートの家庭よりデータが少なかった為対象外とした。